

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者 評価者 による意見
1 (教師力を組織的、学校校を高める)	① 気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会(教頭)	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教92.3%】 ・学校経営ビジョンを共有し、職員会議や運営委員会、学年会において各教育活動の共通理解を図り、協働的な取り組みができています。ただし肯定的なアンケート結果は高いものの、ずばりしている」の回答は昨年より減少、「どちらかといえばしている」の比率が上がっている。よりコミュニケーションを深め、互いの考え方を尊重しつつ組織的な共通実践を推進していく。	A	・報・連・相をはじめとする各種情報の共有の場は、会議に限らず何気ないコミュニケーションからも行えることが多い。そういったコミュニケーションが円滑に行えるような職場の環境づくりに努めていくことが大切である。
	② 働き方の見直しを進める。	運営委員会(教頭)	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定したり、業務の標準化を行ったりすることで、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上	【80超えない職員 4月74% 5月88% 6月92%】 昨年と比較し、時間外勤務が80時間を超える職員はわずかながら減少している。学期初めの繁忙期は時間外が多いものの、月が進むにつれ減少している(4月7名→6月2名)。職員の意識も向上が見られ、定時退校日には意識して早めに帰宅する姿が見られる。見直しをもって計画的に取り組む業務のあり方を推進し、各種取り組みの予定を早めに共通理解することで繁忙期の標準化を図る。	C	・報・連・相ができていない」と答える職員が一人もいない組織づくりを目指していくべきである。 ・時間外勤務の削減のためには、業務の標準化が必須である。今一度、業務の割り振りや適切であるかどうかを見直す必要がある。 ・時間外勤務のさらなる削減のためにも、部活動の地域移行を推進していくべきである。
	③ 生徒の「自己指導能力」を育む。	生徒指導(泉)	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	・昨年度の反省から、年度当初に校内研修会を行い、具体的な自己指導能力の獲得について検討した。そのことが肯定的な回答につながったと考える。ただし、「そう思う」が19.2%、「どちらかと言えばそう思う」が76.9%であった。「そう思う」を増やすために、各学年に応じた自己指導能力の獲得に向けて、検討する時間の確保、及び生徒との共有の場を設けていく。	A	
2 (自ら進んで学ぶ生徒)	① 目標を達成した姿を明確にする。	研究(斉田)	【満足度指標】 既習事項を想起させたり、学習課題を明示したりすることを通じて、生徒が目標を達成した姿を具体的にイメージできるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題をつかみ、学習の見通しをもっていたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業の導入部分で、生徒が目標を達成した姿をイメージできるような手立てを行ったか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教96.2% 生93.6】 肯定的な回答の割合が教師、生徒ともに昨年の12月よりも向上している。生徒の実態を的確に把握し、単元構成を工夫する中で、教師と生徒が具体的なゴールイメージを共有することができていると考えられる。引き続き、生徒に学びを委ねるという視点からも、生徒が本時の学びを自分ごととして捉え、自分の考えを表現したいと思えるような意図的なしつけや場面設定を、教科ごとに工夫していく。	A	・生徒アンケートの結果数値が高いのは、日々の授業における、「できた」「わかった」といった成功体験の積み重ねがあるからこそであると考えられる。引き続き取り組みを継続させ、生徒たちに益々の自信を持たせていけると良い。 ・教職員の結果数値とのギャップを埋めることで、さらに生徒たちの学力向上が期待できると考えられるので、今求められている新たなアプローチ、新たな方法について、先生方がしっかりと研鑽を積んでいけると良い。 ・生徒たちに「委ねる」ことで、自己指導能力の育成にもつながっていくと思うので、積極的に授業の中でそういった場面を設定していくべきである。
	② 課題解決に向けた指導方法・教材等を工夫する。	研究(斉田)	【満足度指標】 課題解決のために必要な視点を明確にすることを通じて、生徒に学びを委ね、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につなげる。	【生徒アンケート】 ・自分に合った方法や視点から、課題を解決できたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業の展開部分で、思考や対話の視点を明確にし、生徒にまとまった活動時間や課題解決の方法を委ねることができたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教76.9% 生91.4%】 教師の肯定的な回答の割合が、昨年の12月よりも大幅に減少している。生徒に学びを委ねる度合や方法について理解や解釈が、授業者によって異なっていることが原因であることが考えられる。まずは、学びを小さく委ねる具体的な手立てについて、教科を越えて好事例を共有していくことが必要である。今後の教科部会や校内研修会での授業実践交流を通じて、考える視点の明確化やICTの効果的な活用について、研鑽を積んでいく。	B	・年度が後半になるにつれ、学習内容も難しくなっていくことが考えられるが、そういった状況の中でも、アンケートの結果数値を高く維持できると良い。
	③ 視点を明確にしてアウトプットさせる。	研究(斉田)	【満足度指標】 生徒の理解度に応じて書き方を選択できるようにすることを通じて、学習課題と整合した適切な形で学びをまとめたり、振り返りを行うことができるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題に合う形で、授業の学びをまとめたり、振り返りすることができたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・授業の終末部分で、生徒が課題に合ったまとめ、振り返りができるよう、キーワードや書き出しを指定するなどの手立てを行うことができたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教84.6% 生93.6%】 最も肯定的な回答の割合が、教師、生徒ともに昨年12月よりも向上している。課題に合った形で、本時の学びをまとめたり、振り返りする活動が、どの教科においても一定程度、定着してきていることがわかる。今後は、生徒がどのようなまとめ、振り返りを行い、目標を達成したと言えるのかという部分について、具体的な生徒の姿で検討していくことができるしくみを構築し、質的な部分をさらに向上させていく。	B	
3 (明るく素直に振舞う生徒)	① 生徒指導・教育相談を充実させる。	生徒指導(泉)	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数5件】 【いじめ認知件数3件、うち解消0件 解消確認まで3カ月を要するため】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケート、QU調査後のヘルプシグナルのチェック、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	・「能美市が好き」「根上中が好き」という結果数値は、大人が子供たちにどう関わるか、また、どれだけたくさん大人が関わるかによって変わるのではないかと考える。CSとしての活動をさらに推進していく中で、たくさんの人材を確保し、質・量ともに取り組みを高めていくことで、「能美市が好き」「根上中が好き」という生徒を増やし、ひいては郷土を愛する心を育成につなげていってほしい。
	② 特別の教科道徳において、道徳的価値について考えを深める。	教務・研究(木村)	【努力指標】 生徒が、効果的な振り返りを通して、道徳的価値についての自身の考えの深まりを実感できるようにする。	【教職員アンケート】 ・ねらいとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるような授業展開の工夫に努めている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・道徳の授業では、友達との話し合いなどを通じて、テーマについて自分の考えを深めることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教90.0% 生94.2%】 教職員アンケートでは、「ねらい達成のための授業展開の工夫」に努めている教師が90%と昨年度を上回った。学年でのリレー授業などの取り組みを通して、生徒のより深い学びにつながる発問や展開の工夫ができるよう、授業力の向上に努めている。一方、生徒アンケートでは昨年度の95.3%を下回っている。昨年度から道徳の授業で取り入れた「Qワード」や道徳ノートを用いて、話し合っていたこと・学んだことを効果的に振り返る場面を設定し、生徒の考えの深まりを実感できる機会とさせたい。	A	・「能美市が好き」「根上中が好き」(または、好きではない)という回答に対し、「何が好きなか」(または、どこが好きではないのか、何か好きではないのか)等、具体的な理由を理解することによって、さらにその数値を高めるヒントがあると考えられる。
	③ 郷土を愛する心を育成する。	教務・研究(本川)	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「根上中が好きか？能美市が好きか？」の結果 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教88.4%】【生:根88.5%】【生:能89.7%】 教職員アンケートの「総合的な学習に関して」、生徒アンケートの「根上中が好きか」「能美市が好きか」について、いずれも昨年度に比べて上回っており、達成率Aに近い値となった。今後は総合的な学習の時間を中心に、地域と連携しながら、能美市の環境や企業について調べたり、実際に体験したりすることを通して、能美市の魅力を見つけ、郷土を愛する心を育成する機会としたい。	B	
4 (強い身体をもつ生徒)	① 基礎体力を向上させる。	保健体育(泉)	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【体力テスト 51.9%】 全国との比較では、48項目中10項目は平均を上回っていた。残りの38項目の向上が求められる。握力、上体起こし、50m走、20mシャトルラン、立ち幅跳びで全学年男女全国平均を下回る結果となっている。各項目をいかに高めていくかが課題となっており、保健体育の授業の中で、向上に向けたトレーニングを実施していく。	B	・生徒一人ひとりの体力向上を、保健体育の授業のみに頼るのは無理がある。休み時間を利用したり、家で時間を活用したりなど、日々の生活の様々な場面で少しずつでも取り入れていくことによって、より効果が見られるのではないかと考える。
	② 健康教育を充実させる。	保健環境(四間丁)	【満足度指標】 「睡眠」と「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や内科検診の結果を含め、生徒が年間を通して生活改善を意識できるようにする。	【生徒アンケート】 ・「毎日朝食を食べている」「睡眠時間の確保」ができていたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、内科検診後の受診状況 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【朝食:そう思う85.1%、どちらかといえばそう思う10.8%、計95.9%】 【睡眠:そう思う46.1%、どちらかといえばそう思う39.7%、計85.8%】 朝食に関してはほぼ満足いく結果となったが、睡眠に関しては課題が残る。「みんい」の考え方を元に、睡眠の効果や必要性、また睡眠時間を確保するために時間を管理することなども含めて、生徒会保健部で周知する活動を行っていく。 【受診状況:眼科46.3%、内科57.1%】 1学期末の個人懇談で定期検診の結果から各科受診のお知らせを直接保護者に渡すことができた。夏休み中の受診を期待し、2学期に受診率を再計算する予定。	B	
5 (コミュニティ・地域の連携)	① 学校運営協議会を充実させる。	教務(辻)	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・学校・保護者・地域がつながり合って、生徒の成長を支えていると感じる(コミュニティスクールとの連携等)。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からいただいた意見を、日々の教育活動に生かしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保59.1%】【教84.6%】 昨年度より、アンケートの文言をより具体的なものに変更した。保護者アンケートは昨年度よりも数値が大幅に向上し、教職員アンケートは昨年度とほぼ同等の数値であることから、ホームページの充実や教職員間での学校運営協議会に関する情報共有が効果的に行われていると考えられる。昨年度に引き続き、学校運営協議会「サポーター名簿」を作成し、学校としてのニーズを明確にしていく。そして、働き方改革を更に推進し、教師が生徒と向き合う時間を確保するために、学校運営協議会を通じて、あらゆる場面でサポートしていただけるよう、体制の整備を継続して行っていく。	C	・ホームページをより多くの人に見てもらうために、QRコードやリンク貼り付けなどを効果的に活用する良い。各種おたより、コードの連絡、PTAの封筒など、学校からの発信しているあらゆる情報手段にそれらに貼り付けることで、目に触れる機会が増えることが期待できる。また、学校行事や地域のイベント等、人が集まる場所にQRコードを掲載したり、地域の回覧板や掲示板にも同様にQRコードを掲載させていただくという方法もあるのではないかと考える。
	② 適切な情報公開と社会貢献を展開する。	教務(辻)	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、「はたらく子」を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「そうしている」「あいさつができる」「係活動に取り組んでいる」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保36.6%】【生:掃97.5%、接86.7%、係92.5%】 「はたらく子」という視点では、昨年度と同様に、安定して高い満足度を得られていることがわかる。生徒会執行部や各生徒部会を中心として、さらに取組の質を向上させていくことができるよう、継続して仕掛けていく。 情報発信については、昨年度からアンケートの文言を精査したことで、より実態を正確に把握することができるようになっていく。HP内の「校長コラム」を通して、学校内での出来事を時間を空けずに発信している。この取り組みをさらに充実させていき、学校・保護者・地域のつながりを深める一助としていきたい。	C	・ホームページにはどんな情報が掲載されているかを、折に触れて保護者や発信していくことで、見ようとする人が増えることが期待できる。